

9

古典の読解①



古文は、文章の大意をとらえることが大切だよ。語注をヒントに読み進めながら、動作や会話の主体を見極め、文章のおおまかな内容をつかもう。また、古文特有のきまりを押さえて、正確な読み方を身につけよう。

1 歴史的仮名遣い

(1) 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」↓「わ・い・う・え・お」と読む。

例 あはれ↓あわれ いふ↓いう よそほひ↓よそおい

(2) 「ぢ・づ」↓「じ・ず」と読む。

例 もみぢ↓もみじ よろづ↓よろず

(3) 「ゐ・ゑ・を」↓「い・え・お」と読む。

例 ゐる(居る)↓いる こゑ(声)↓こえ をかし↓おかし

(4) 「くわ・ぐわ」↓「か・が」と読む。

例 くわし(菓子)↓かし ぐわんじつ(元日)↓がんじつ

(5) au・iu・eu・ou↓ô・yû・yô・ôと読む。

例 まうす(申す)「mausu」↓もうす「môsu」

2 省略

(1) 主語の省略

例 雀の子の、人がねず鳴きするにをどり来る。

(2) 目的語などの省略

例 かぶとを押しあふのけて顔を見ければ

(3) 助詞の省略

例 竹取たけとりの翁おきなといふものがありけり。

3 会話文の把握

会話文の初めは、会話の主体や「いはく」「いふやう」「いひけるに

は」などの表現に着目する。会話の終わりは、引用を示す「と」と「にて」などに着目してとらえる。

例 これはいかなる者ぞと問ふに ↓ 引用を示す助詞「と」

例 女、答へていはく、「これは、蓬萊ほうらいの山なり。」と答ふ。
(答えて言うには) (と答える)

4 係り結びの法則

文中に、特定の係助詞(強調や疑問を示す語)があるとき、結びの語が終止形以外になるきまりがある。これを「係り結び(の法則)」という。

(1) 「ぞ・なむ・や・か」↓連体形で結ぶ。 例 竹なむ一筋ありける。

(2) 「こそ」↓已然形いぜんで結ぶ。 例 尊くこそおはしけれ。

5 重要古語

(1) 現代語にはない語

*いと||たいそう。とても *げに||本当に。なるほど

*つきづきし||似つかわしい *やうやう||だんだん

*いみじ||程度がはなはだしい(良い場合にも悪い場合にも用いる)

*つゆ||少しも *うし(憂し)||憂鬱だ。つらい

(2) 現代語と同形で異なる意味がある語

*あはれなり||しみじみとした趣がある *やがて||すぐに

*すさまじ||興ざめだ *ののしる||騒ぎ立てる

*ゆかし||ほしい。心ひかれる *うつくし||かわいらしい

1 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

しづかに思へば、よろづに過ぎにしかたの恋しさのみぞせんかたなき。^a^b^{*1}

人しづまりて後、長き夜のすさびに、なにとなき具足とりしたため、^{*2}
残しおかじと思ふ反古など破り捨つる中に、なき人の手ならひ、絵かき^{*4}
すさびたる見出でたるこそ、ただその折の心地すれ。このごろある人の^{*5}
文だに、久しくなりて、いかなる折、いつの年なりけんと思ふは、あは^{*6}
れなるぞかし。手なれし具足なども、心もなくて変はらず久しき、いと^d
かなし。^e
(『徒然草』)

注 *1よろづに〓何事につけても。

*2すさび〓なぐさみ。

*3具足〓身のまわりの道具類。

*4残しおかじと思ふ反古〓残しておくまいと思う書き損じの紙。

*5なき人の手ならひ、絵かきすさびたる〓亡くなつた人が字を書き習い、絵を描きちらしたものの。

*6このごろある人〓今生きている人。

KEY 歴史的仮名遣い

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題は入試によく出るので、直すときのきを右ページの①を見て、しっかり覚えておこう。

問一 〈仮名遣い〉 線 a 「思へば」、b 「よろづ」、c 「手ならひ」、

d 「変はらず」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

a c
b d

KEY 古語

入試に出題される古語は、ある程度決まっているので、基本的な古語(右ページの⑤)を覚えておこう。語注がある場合は、語注を参考にして前後の意味から古語の意味を考えよう。

問二 〈古語〉 線①「せんかたなき」、②「あはれなる」のここでの

意味として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

① せんかたなき
ア 知らないほうがよい。
イ どうにも抑えられない。
ウ どうか我慢できそうだ。
エ いつか忘れてしまいそうだ。

② あはれなる
ア 心にしみじみと感じられる。
イ かわいくて、いとしい。
ウ かわいそうだ。
エ みごとである。

問三 〈古語〉 「たいそう。とても」の意味を表す古語を古文中から一語

で書き抜きなさい。

KEY 文学史

古典の主要な作品は、作者名と時代をセットにして覚えよう。また、三大随筆(『枕草子』『徒然草』『方丈記』)などの基本的な知識も押さえておこう。

問四 〈文学史〉 この文章の、A 作者と、B 書かれた時代をそれぞれのA

(工から選び、記号で答えなさい。

A 紀貫之 清少納言
鴨長明 兼好法師

B 奈良時代 平安時代
鎌倉時代 江戸時代

A B



漢文は古い時代に中国で書かれたもので、これに記号をつけて、「訓読」したもののが日本でも古くから親しまれている。返り点や送り仮名をはじめとする漢文のきまりをしつかり覚えよう。

1 漢文の読み方

(1) 返り点：日本語として読む順序を示す左下の記号。

① レ点^レ 一字下から上の一字に返って読む。

例 ① ② ⑤ ④ ③

② 一・二点^{いちに} 一の字を読んでから二の字を読む。

例 ① ⑤ ② ③ ④

(2) 送り仮名：訓読のための右下のかたかな。日本語の助詞や助動詞、用言の活用語尾などを示す。

例 国 破^{レテ} 山 河 在^リ (国破れて山河在り)

(3) 書き下し文：漢文を送り仮名と返り点にしたがって、漢字仮名交じり文で日本語読みのしたもの。

例 己^ノ 所^ハ 不^ズ 欲^セ ↓ 己の欲せざる所は

(4) 置き字：原文にはあっても訓読する際には読まない文字。書き下し文に改めたときにも書かない。 例 矣・於・而

2 漢詩の形式

(1) 絶句

五言絶句 一句(一行)が五字で四行の詩。
七言絶句 一句(一行)が七字で四行の詩。

(2) 律詩

五言律詩 一句(一行)が五字で八行の詩。
七言律詩 一句(一行)が七字で八行の詩。

1 「訓読の順序」

次の訓読の順序を記号で答えなさい。

例 ア イ ウ ↓ 「ア・ウ・イ」

① ア イ ウ エ

② ア イ ウ エ オ

2 「書き下し文」

次の漢文を書き下し文に直しなさい。

① 有^レ 備^ヘ 無^シ 患^{ウレヒ}

② 故^コ 人^{ジン} 西^ノ 辞^{カタ} 黄^{シク} 鶴^{ワウ} 楼^{ロウ}

③ 低^タ 頭^{レテカウヘ} 思^フ 故^コ 郷^ヲ

3 「返り点」

次の書き下し文に合うように、漢文に返り点をつけなさい。

① 時に感じては花にも涙を濺^{そそ}ぎ

感^{ジテハ} 時^ニ 花^{ニモ} 濺^ギ 涙^ヲ

② 但^ただ人語の響^きくを聞く

但^ダ 聞^ク 人^ノ 語^ヲ 響^{クラ}

4 次の漢文を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔漢文〕

水^ハ不^レ波^{レバ}則^チ自^マ定^マ鑑^ミ不^レ翳^{レバ}則^チ自^ラ明^ミ故^ニ心^ハ
 無^ク可^レ清^ク去^{レバ}其^レ混^ミ之^ノ者^ニ而^{シテ}清^ク自^ラ現^ミ樂^ハ不^レ必^ズ
 尋^ミ去^{レバ}其^レ苦^{シムル}之^ノ者^ニ而^{シテ}自^ラ存^ス

〔書き下し文〕

水は波だたざれば則ち自ら定まり、鑑は翳らざれば則ち自ら明らかなり。
 □、其の之を混らす者を去れば清自ら現る。樂は必ずしも尋ねず、
 其の之を苦しむる者を去れば□自ら存す。

注

- * 1 自ら||ひとりでに。自然と。
- * 2 鑑||鏡。
- * 3 混らす||濁らせる。
- * 4 者||物事。こと。

(洪自誠『菜根譚』)

KEY ① 書き下し文

漢字の左下にある返り点の読み方のきまりをしつかり覚えて、正しい順序で読めるようにしておこう。漢字の右下の送り仮名は、その漢字に続けて読めばよいことも覚えておこう。

問一 〈書き下し文〉 — 線① 「故 心 無 可 清」の書き下し文と

して最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 故に心は無く清くすべきこと
- イ 故に心は清くすべきこと無く
- ウ 故に心は清くす無くべきこと
- エ 故に心はべきこと無く清くす

KEY ② 返り点

まずは対応する部分の書き下し文をよく見て、漢字をどの順序で読むのかを押さえよう。すぐ下の字を先に読む場合はレ点をつけ、二字以上離れている字を続けて読む場合は、一・二点をつけよう。

問二 〈返り点〉 — 線② 「不 必 尋」に、書き下し文の読み方になるよう

に、返り点をつけなさい。

不 必 尋

KEY ③ 現代語訳

漢字や単語の意味だけを考えたのでは正解にたどりつけないことが多いので、前後の文脈や文章全体の内容から考えるようにしよう。語注がある場合は語注を参考にしよう。

問三 〈現代語訳〉 — 線③ 「定まり」のここでの意味として最も適切な

ものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 静まっている
- イ きれいで
- ウ 一定の量になり
- エ 干満をくり返し

KEY ④ 内容理解

現代語訳の問題と同様で、前後の文脈や文章全体の内容を押さえることが大切だよ。漢文特有の言い回しに慣れると、文章全体の内容や、漢文に表現されているものの見方が読み取れるようになるよ。

問四 〈内容理解〉 □にあてはまる語を漢文中から漢字一字で書き抜きな

なさい。